



ICHITOKU

川越市立特別支援学校 学校だより

令和7年10月6日発行 第6号

学校教育目標『ひとりだちする生徒』

TEL049-222-2753 Fax049-229-1231

「ひとりだち」に向けて、現場実習へ取り組む

校長 肥留間 智子

やっと、秋らしくなってきました。夕方は、少しずつ日が短くなり暗くなるのも早くなってきました。これまで暑くて、外出することが難しかったと思いますが、これからはおいしいものを食べたり、自然を楽しんだり、身体を動かしたりなど、積極的に行動し五感を使って絶好の季節を楽しんでほしいと思います。

さて、体育祭が終わってから、どの学年も10月中旬から始まる産業現場等における現場実習に向けて、準備が始まりました。今回初めて現場実習へ行く1年生は、事前面接や通勤練習、先生方への報告など、緊張しながらも全力で取り組んでいる姿が印象的です。校長室での報告では、声の大きさ等に気をつけて話すことができたり不意の質問にもきちんと答えようとしていたりして、4月からの半年間に積み重ねてきた毎日の活動や様々な行事等で体験してきたことが各自の成長として表れています。

2年生は、6月の現場実習に続き様々な仕事を体験して、卒業後の就労先を考える大切な一年間です。就労準備性ピラミッドの土台となっている「対人機能」「日常生活」「健康管理」について、自分のペースで先生方の助言をもらいながらどの生徒も努力しています。特に、友達同士で声をかけ合い、お互いを高め合う様子が多く見られ、微笑ましく温かい雰囲気があります。

3年生は、卒業後の就労を見据えた現場実習です。今までの実習や毎日の生活の中で指摘された自分の課題を克服するために、自分に厳しく少し高い目標を立てて努力している姿が、あちらこちらで見られます。そんな3年生のおかげで、学校全体が和やかでありつつも規律正しさもあり、本校の良さだと感じます。

今年度も、半分が終わり後半戦に入ります。これからも、生活や学習の基礎基本を生徒一人一人に確実に身に付けさせ、たくましい「ひとりだち」を指導、支援していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

★講話朝会より(10/2)



今回の講話朝会では、体験したり感じたり考えたりしました。

まず、教頭先生が、「大きな木がある」「その隣に家がある」「家の後ろにはビルが建っている」「家の前には柵がある」など、絵に描いてあることを言葉だけで伝えました。それを聞いて生徒が絵を描きます。さて、同じような絵が描けたでしょうか。生徒同士が見せ合ってみると、それぞれのイメージで描いた絵は、みんな違っていました。

この体験から、「自分が思っているとおりに相手に伝わるとは限らない」「人も自分と同じように思っているとは限らない」「自分と人は違うのだから、自分の考えを押しつけない」という話をしました。私は、人と話をするには、相手の話を一方的に聴く(話す)だけではなく、質問をしたり確認をしたりして何度かやり取りをしなければ、「伝える(伝える)」とは言えないと思っています。初めて会う人との会話では、なおさらです。

これから現場実習へ行くと、様々な方々と関わる機会が増えます。人とのコミュニケーションの練習もたくさんしてきてほしいです。実習後の事後報告が楽しみです。

